

さざなみ : **滋賀医科大学附属図書館報** No.36
(1994.6)

発行年	1994-06
URL	http://hdl.handle.net/10422/1147

さざなみ



滋賀医科大学附属図書館報

No.36

目 次

1994年 6 月

図書館の時間と空間 附属図書館長 高橋 三郎 2

図書館入退館事務機械化システム導入にあたって 図書課運用係 4

シリーズ「本との出会い」(2)
本を読む機会とその時得られるもの 生化学第二講座教授 大久保 岩男 6

平成6年度「新入生ガイダンス」
実施報告 図書課運用係 7

図書館へ行こう
新一年生へ 第2学年 中野左和子 7

OPACサービスの拡充について 図書課整理係 8

附属図書館の活動 9

図書館の時間と空間

附属図書館長 高橋 三郎

昨年秋、たまたま、第2次補正予算のお蔭で予期しない予算配分があり、我々の図書館に「入退館事務機械化システム」が設置され、今年5月より職員のいない夜間や休日でも利用が可能となった。従来、開館時間は午後8時迄で、土曜、日曜は閉館という学部学生の時間に合わせられた物で、教官や大学院学生からの不満が強かった。開館時間の延長は長年の課題であり、しかし、職員の配置とも関係しており、早急には解決しがたいものと思われていた。この問題が機械化システムの導入により一挙に解決された形となり、こうして、5月以降は平日は勿論のこと、土曜、日曜も含めて毎晩10時まで利用が可能となった。とうの昔に、米国の医科大学の図書館などでは土曜、日曜の開館は勿論のこと、24時間利用可能の所さえある。そして、土曜、日曜には特に利用者が多いようである。いわば、わが国では、これまで当然のことが当然でなかった訳であるが、何はともあれ関係者として喜ばしい。

大学図書館は変革を要求されていると言うのが、今日のキャッチフレーズの一つである。大講堂で、遙か先に小さく映されたスライドを見ながらスピーカーから流れてくる講義を聴く学生の姿は段々となくなりつつある。その代わり、小グループ、自由討論の授業が増え、図書館はその準備をするための資料を集め、それを自分の好みで編集するという場所になってきている。即ち、自分で学ぶ方式(easy method)が浸透してきている。研究者も図書館に足を運ばなくなった。情報ネットワークのデータベースにより研究室の中の端末で文献検索を行っている。確かに、図書館、少なくとも大学図書館は、従来のように図書だけを扱う所ではなくなっている。多数のバックナンバーや古書を管理しておき、これらの知的遺産を調べたい人にそれを提供するという保存図書館としての機能は次第に小さくなっている。しかし、最近、次々と開発される新しいメディアを利用した資料や教材、たとえば、CDI、ビデオテープ等にしても、紙がプラスチックに代わっただけで、直接、眼で見る代わりに機械を通して見るだけのことで、マクロ的な時間軸を通して見れば、これも古書の保存と大して変わらない。

今年4月新しい気持ちで図書館という空間に入った時、四十数年前、生まれて初めて図書館に入った時の印象が蘇ってきた。十代の後半、旧制高等学校に入学してから、人間には教養がなくてはならぬ、それには先ず本を読み、という指導教官の助言もあって、早速、珍しいもの見たさで附属図書館に行ってみた。それは、高い窓を通して白い雲が流れてゆくのが見える、寒々と静まりかえった空間であった。黒い詰襟姿の学生が十数人、貧乏揺すりしながらその広々とした空間で本を読んでいた。明治時代に建てられたどっしりとした煉瓦造りの建物の内部は、頁を綴る音だけが伝わってきた。図書館とは中々厳粛な場所なのだ。その片隅で、試験前でもないのに数学の教科書を開いて勉強している級友の姿を見つけて一寸話しかけたが、中老の男の職員に私語を制止された。図書館とは、自分の勉強をしてもよい所なのだ。

今日の大学図書館が余りにも資料と情報を提供するという役目を意識する余り、本のための物置になってしまっていないだろうか。いわば、わが国の大多数の家庭の居間が家具や器具の物置になっているようなことである。しかし、図書館には、静かに本をよみ、静かに集中して学習する雰囲気をもつ空間を提供するという役目がある筈である。

図書館の空間についてもっと異なった見方をして見よう。例えば、医学図書館が研究と医療の支援がその使命の一つであるなら、利用者中心に考えれば、臨床医は患者を見ながら、研究者はデータを

見ながら、コードレス電話で中央の医学情報センターと連絡し、センターから貰った情報に従って、自分の考え方の方向決定 (decision making) をしてゆく。もしこれが普及すれば、全ての医療従事者が何を何処でも利用でき、各人が夫々好きな時間に症例検索を行い、患者を見ながらでさえ各チェックポイントで診断と治療の相談が行える。こうなれば、ナースステーションの端末や、病院内の医学図書館さえも不要になる。その時、図書館はかつての厳粛な雰囲気を取り戻し、静かに本を読みたい人だけの空間になるだろう。

医学図書館は他の種類の図書館と異なった役割をもつべきであり、何か研究開発機能をもたねばならないとも言われている。

米国の図書館は Library と呼ぶより、Learning Resource Center などと呼ばれるようになって、その一室にはコンピュータの端末50台が並んでいるのである。解剖学の教授が開発した解剖学学習用ソフトによって、各器官別各系統別にその名称、構造、他器官との関連を示す断面図や組織像などが見られる。一つの器官の学習が終われば、それに応じた設問があり、これにパスしなければ次のステップが呼び出せない。商業用に開発された解剖学学習用のソフトは ADAM と呼ばれ、米国の医大の80%に採用されていると言う。しかし、一旦このようなシステムが導入されると、学生はセンターに通ってコンピュータ相手にそれ相応の時間を費やさなければならなくなる。短くまとめた試験対策シリーズの小冊子などを一夜漬けて丸暗記して試験を受けるような芸当は最早、通用なくなり、学生は、皆、相応の時間を勉強に費やさねばならない。考えてみれば、これは学生本来の姿である。これは丁度、一本の映画を観るのに初めから終わり迄じっくりと観賞するか、映画雑誌の解説を一頁だけ読んでそのストーリーや主演俳優の名前を覚えているかの違いであって、とにかく映画を観なくともその映画の内容は大体が分かってしまう。

今日の学生はテレビばかり観て、自分で勉強しないなどと言われ、だからこのような新しい教材がどんどん作られている。実際、こうした教材は観ていて余り面白いものではない。そこでテレビの娯楽番組の間に、コマーシャルをスポットで流すような具合に、例えば、ドラマやステージなどのフィルムに学課のスポットを組み合わせたレーザーディスクを作ってみたらどうだろうか。級友とクラブやら旅行やらに皆勤して皆と一緒に楽しくやりながら、その合間合間に、級友からいろいろ教えてもらっただけの知識で試験を受けている要領のよい学生はきっと喜ぶに違いない。

このような中々楽しい教材の開発を阻害するものは、実は、学生自身の脳の中にあるソフトである。と言うのも、試験前になると、電車の中で一斉に教科書やノートを開けて勉強している高校生が多いが、ノートの代わりにノート型パソコンで勉強している高校生は未だいない。その理由を辿ってみると、高校生達は小学生の頃から、活字に印刷された教科書で勉強してきており、いわば、彼らの脳のソフトは既に紙に書かれた文字を通して学習するソフトがきっちりと組み込まれているからである。

このように、人間を取り巻く時間と空間は人間自身が作り上げたシステムに合わせて作られてしまっており、時間と空間の広がりを変えるには、人間そのものの改革が必要である。小学校から教室無しで、教科書無しの授業をスタートさせた人間の集団を育てなければ、今日の大学図書館を取り巻く時間と空間は根本的に変わり得ない。だから、大学図書館には、本が増え、書架の合間に残された僅かな空間が図書館の空間となってゆく。

図書館入退館事務機械化 システムの導入について

図書課運用係

本年4月から試行運用していた図書館入退館事務機械化システム（以下、「本システム」という）を、5月9日から本稼働導入しました。本システムは入館管理システム、ブックディテクション・システム及び入室ゲートシステムの三つのサブシステムから成り立っています。通常の時間帯には、入室ゲート及びブックディテクション・システムを、また、無人開館時には、入館管理システム及びブックディテクション・システムを稼働させています。

1. 通常時間帯における本システムの運用について

1. 1. 入室時

図書館玄関を入ると、駅の自動改札によく似た入室ゲートがあります。この入室ゲートの投入口に本学発行の職員証又は学生証（以下、「身分証明証」という）を差し込み、取り出し口から出てくる自分の身分証明証を取り出してください。この際、ゲートが開きますので通過してください。この入室ゲートシステムの導入によって、入館者数を正確に把握することが可能になりました。



身分証明証の差し込みかた

- ・写真の貼ってある面を裏にし、右側に磁気テープ部分がくるようにしてください。

1. 2. 退室時

図書館退室時には、退室バーを押して通過してください。この退室バーは、ブックディテクション・システムを構成する一部分です。ブックディテクション・システムは、図書館資料と私物資料の識別が自動的にできるため、これまで持ち込みできなかった鞆などの私物の持ち込みが可能になりました。貸出手続きを忘れたまま図書館資料を持って退室バーを押して通過しようとする、警告音がなります。図書館資料の貸し出し手続き忘れを防止できますので、図書館資料が一時的に行方不明になることを防ぎます。

1. 3. Q & A

○身分証明証を忘れた場合、どうすればいいでしょう。

身分証明証は入館手続きだけでなく、本を借り出す場合にも必要なものです。忘れず携行の上、来館願います。なお、うっかり身分証明証を忘れた場合は、職員通用口に入り、手続きの上、一時利用証の交付を受けてください。一時利用証は入室ゲート通過後、カウンターに返却してください。

○友達が入室するとき、いっしょに入ってしまうか。

身分証明証を忘れた方が同行の方と同時に入ろうとされると、警告音が鳴ります。身分証明証は各人ご用意願います。

○正しく入室ゲートに身分証明証を入れたのに警告音が鳴りました。
現在までのところ、以下のケースがありました。

- I. 大きな鞆を持って、通過した場合。人が二人続けて通過したものとみて、警告音が鳴りました。
- II. 身分証明証に微かなゆがみが生じている場合。カード読み取り装置の中で止ってしまいました。

以上のようなことが生じた場合、係員が対処いたしますので、ご協力お願いいたします。

なお、

Ⅲ. 身分証明証が事故カード扱いされている場合。紛失届けの出された身分証明証について事故カードの取り扱いをしておりますので、事故カード扱いになっている身分証明証を入室ゲートに入れると警告音になります。

Ⅳ. 身分証明証が無効カード扱いされている場合。有効期限の過ぎた身分証明証あるいは身分の異動により資格のなくなった身分証明証を入室ゲートに入れた場合は無効カードとして、警告音が鳴ります。

○図書館の本を持ち出したわけでもないのに、警告音が鳴りました。

まれにはありますが、傘を持って通過した時に警告音が鳴ったケースがあるようです。(ほとんどの傘を通して警告音は発生しません。) その際は、係員が対処いたしますので、ご協力をお願いいたします。

2. 無人開館試行サービスと本システムの運用について

2. 1. 無人開館試行サービス

入館管理システムの導入により、無人開館の試行サービスを3か月間下記の要領で実施することになりました。なお、試行サービスの利用動態を検討の上、本運用に入る予定です。

期 間：平成6年5月9日から

平成6年7月31日まで

サービス対象：教官・医員（研修医）

及び大学院生

サービス範囲：閲覧・複写・医学中央雑誌

CD-ROM版の検索

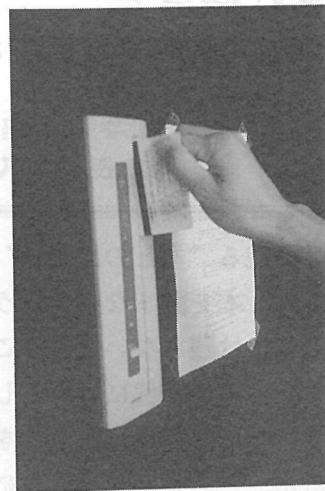
実 施 時 間：平 日 20：00～22：00

土曜日 17：00～22：00

日祝日 13：00～22：00

上記実施時間帯に、図書館入り口のカードリーダーに身分証明証を読み取らせて、扉の鍵を解錠させ入館することが出来ます。退館の際は、出口左側の壁の解錠ボタンを押すと、一時的に鍵があき、退館することが出来ます。

入退館の操作は履歴として記録されていますが、採取したデータは本運用の実施計画に利用いたします。



身分証明証の差し込みかた

・磁気テープ部分を溝に差し込み上から下へスムーズに移動してください。

2. 2. Q & A

○研究生は利用できないのでしょうか。

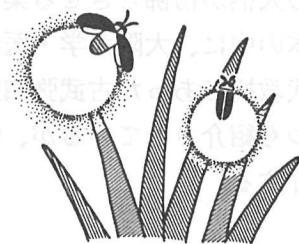
現在実施している試行サービスでは、研究生は利用できません。20時までの利用をお願いします。

○20時までに図書館に入館している場合は、そのままいてもいいのでしょうか。

閉館時に職員が閉館点検の際、すべての利用者の方に退館のお願いをいたします。無人開館利用をされる方も一旦退館していただきます。その後、再入館願います。

○無人開館時間、電話は使えるのでしょうか。

図書館出口右側に発信専用の内線電話を設置いたしました。(着信は出来ません。) 研究室や病棟に連絡を取る際には、この電話を使ってください。



本を読む機会と その時得られるもの

生化学第二講座

教授 大久保岩男

私には記憶に残る“本との出会い”が殆どないと言ってよい。本を読まないと言うのではなく、何年何十年とは残らないと言うことである。若い頃、医学部の学生時代には時として、文庫本としてシリーズで発売されたものを読んでいた記憶はあるが、どの本が私の人生に影響するほどの衝撃を与えたかという、思い出すものがない。従って、その本の中に埋没したという記憶もない。“生き方”を変える本に出会った人の話を聞くことがあるが、羨ましいとも思う。

“生き方”を変えるほどの本に遭遇すると良いのではあるが、私が専ら出会うのは研究論文の掲載された欧文誌ばかりである。このようなものが人生の生き方を変えるほどの力をもつとも思えない。時折、学問的影響は与えても。

本年の春には私の関係する教授が5名定年退官された。退官時には多くの教授の先生方はその何十年間の総仕上げとして、立派な退官記念誌を出されることが多い。その中にお二人の先生が期せずして、その手紙に全く同じことを書かれていた。即ごみ箱に直行させずに、一度は目を通して欲しいと。ごみ箱に直行する本が多いことを憂はなければならないことは、本と出会い、それを大切にするとする点からは、ほんとうに悲しいことに思える。

お二人うちのお一人の I 先生の記念誌は質素であった。しかし、内容は読んでいて、その先生の人柄が彷彿とさせる楽しいものであった。その本の中に、大阪大学・医学部・生化学講座の初代教授であった古武弥四郎先生の“語録”が幾つも紹介されているが、特に興味深い一つを紹介する。

本も読まなくてはならぬ

考えてもみなくてはならぬ

しかし、働くことはより大切である

読書や考案ばかりでは決して凡人には偉大なことは出来ない

凡人に許されている偉大なものはただ働くことによって得られる

凡人は働かなくてはならぬ

働くとは天然に親しむことである

天然を見つめることである

斯くして始めて天然が見えるようになる

働けば天然が見へるというのは無我になるからである

天然と自分が一体一如になるからである

凡人は働く以外に無我になる方法はない

この文章は偶然ではあるが、前号の“さざなみ”の文献検索の功罪のなかで野崎先生も引用され論じておられるので、意味するところはここでは述べない。しかし、この文章を含めて、“古武語録”は日頃研究に没頭している者にとっては、教訓的であり、耳の痛いことが多く、また得るものが多いと思われた。すべからく、凡人の私どもにとっては....。

このように、時として目に触れ、読む随筆や小説などから考え方や生き方に示唆的なもの多々得られることがあり、その積み重ねが自己の人生感などに反映していくように思う。しかし、私は自分自身の“生き方”を180度変えるような“一冊の本”には未だ出会ってはいない。



平成6年度 新入生オリエンテーションを実施して

図書課運用係

附属図書館の新入生オリエンテーションは例年「履修指導」の一環として行われています。

今年は看護学科の設置に伴い次のように実施しました。

○医学科新入生オリエンテーション

日時：4月12日(火)

14:30-16:00

場所:臨床講義室3及び附属図書館

○看護学科新入生オリエンテーション

日時：4月25日(月)

15:50-16:10

○実施内容

図書館についての概要説明のあと、20名ずつのグループにおいて図書館へ移動し、図書館の設備、資料、利用方法についての案内をした。

図書館の利用のされ方はいろいろです。

まず、1階のブラウジングコーナーには新聞(朝日、毎日、京都、Japan Times)や『アエラ』、『ナンバー』、『日経サイエンス』などの軽読み物が置いてあります。また、衛生第1放送が視聴でき、定期的な利用者がいるようです。

2階には複写機が置いてありますが、利用が多いのでよく故障します。旧式の機械なので部品がないと言われていきますから丁寧に使ってください。

また、キャレル(個席)閲覧机は熟睡するにはいいところのようです。(^^)

これだけでも図書館は十分活用されているといえそうですが、図書館としては、図書や雑誌こそ十分に使っていただきたいと、いつも考えています。

図書館の建物、図書館の資料、それから図書館の職員、この3つをうまく利用することは、新入生の皆さんの学習効率向上につながります。

図書館へ行こう

—新1年生へ—

第2学年 中野左和子

1年生の中で、この図書館を利用したことのある人は一体何人いるのだろうか。私もまだ2年生であり、膨大な量の医学書などは、表紙を見てもわからず、やたらと分厚く、重そうなものを恐々、手にとってページをめくってみてもやはりさっぱりわからない。そういった書物を積み上げて勉強されてる方々を眺めてため息をつくぐらいである。

しかし、図書館にある本はそんな医学書ばかりではないことを1年生の方々はご存知だろうか。数学・化学や文学・芸術学といった教養関係から文庫までけっこうとりそろえてある。また、難しそうな医学書のすきまに、1・2年生でも興味をもって読めそうな医学関係のものもあり、こういう掘り出し物(?)的な本を探し出してみるのも楽しいのではないだろうか。

また、図書館のもう一つの重要な利用法としては、月並みではあるが、自習室として使うことだろう。2階の自由閲覧室ならば、夏はクーラー、冬はヒーターがきいており、夏などはクーラーのない教養棟で学ぶ私たちにとって、すごしやすいこと受け合いである。勉強するもよし、本を読むもよし、ぼんやりするも、居眠りするもよしである。周りの人に迷惑をかけない程度の常識があれば、図書館はなかなか快適な空間ではないだろうか。

とは、言ってみたものの、やはり1・2年生にとっては図書館は少し遠い存在である。実際、教養棟からは遠く、さらに何やら玄関にはものものしい装置があって何かと身構えてしまいそうになる。しかし、池を横切れば案外近くて、ものものしい装置も学生証一枚あればすんなり通れてしまうものである。学年が進むにつれ、また卒業後も利用せざるを得なくなる図書館だが、そうなる前にもっと気楽な気持ちで慣れていってみたいだろうか。

OPACサービスの拡充について

図書課整理係

1. OPAC用端末を増設しました。

図書館事務用電子計算機システムの更新（平成6年3月）にあたり、OPAC用端末の利用増加に対応すべく2台から5台に増設しました。

2台は従来通りカウンター近辺に設置してありますが、増設した3台は、閲覧スペースでも所蔵の検索や貸出の有無が確認出来るように1階閲覧室（1台）と2階閲覧室（2台）に配置しました。

2階閲覧室のOPAC用端末には事務室に常時通話状態のインターフォンが備え付けてありますので、操作していて困った時は呼びかけて下さい。

2. OPAC用端末にプリンタ装置をつけました。

OPAC用端末のうち4台にはプリンタ装置がついています。印刷したい画面が表示されている時に、キーボード左端の[印刷]キーを2度押下することによって、画面が印刷できます。

3. 研究室のパソコンから所蔵検索ができます。

「館外OPACサービスの開始について」（平成6年2月28日付け）で既に通知いたしましたが、電話回線を介して所蔵検索を行うことが可能になりました。

パソコン側に必要な環境は、すでにCD-ROM館内LANシステムを電話回線で利用している場合、VT-100エミュレーションのオプションをキャンセルするだけで接続し利用ができます。

現在提供いたしておりますサービスは、館内OPACサービスのうち図書と雑誌の所蔵検索だけですが、利用実態・要求に即して提供サービスを拡充する予定です。

4. OPACサービス時間を延長しました。

無人開館試行サービスの開始（平成6年5月9日）にともない、館内・館外OPACサービス時間帯を日曜、祝日を除き午前9時から午後10時までとしました。

看護学関係ビデオテープの 利用案内

下記のビデオテープを新規に受入しました。

1) 看護教育シリーズ

全29巻（20～30分）

医療現場における問題点を看護教育専門家と医師が協力編集した臨床看護教育用教材。

2) 看護理論サークルオブノレッジ

全2巻（17、35分）

看護の根本、理論、研究、実践により成立している知識の輪を解説した教材。

3) 救急看護シリーズ

10巻（18～20分）

一次救急処置のポイントを理解しやすく実際に役立てることを目標に編集した救急看護教材。

4) 視て学ぶ健康診査

15巻（各15分）

健康診査の基本的な診査技法の習得に活用できる教材。

貸出しはできませんが、視聴覚室にて観ることができます。

利用申し込みについては、カウンターにお申し出下さい。

附属図書館の活動

(平成6年1月～6月)

利用者向けオリエンテーション

新入生ガイダンス

平成6年4月12日

出席学生:101名(99%)

平成6年4月25日

出席学生:60名(100%)

図書館入退館事務機械化システム説明会

平成6年5月6日

附属図書館刊行物

さざなみ(No.35)(平成6年1月)

附属図書館統計

平成5年度 受入冊数	図 書	1,727冊	
	製本雑誌	2,450冊	
	合 計	4,177冊	
平成5年度 受入雑誌数	和 雑 誌	497冊	
	洋 雑 誌	513冊	
	合 計	1,010冊	
平成5年度 館外貸出	学 生	4,380人	7,715冊
	教 職 員	3,305人	7,685冊
	合 計	7,685人	15,400冊
平成5年度 相互貸借 ()現物貸 借数で内数	受 付	4,992件	(52件)
	依 頼	3,883件	(11件)冊
	合 計	8,875件	(63件)
平成5年度 文献検索利用件数		3,994件	
所 蔵 冊 数	図 書	55,738冊	
	製本雑誌	51,222冊	
	合 計	106,960冊	

附属図書館委員会

第65回附属図書館委員会(平成6年3月1日)

附属図書館の無人開館について

第66回附属図書館委員会(平成6年5月20日)

平成5年度決算報告

図書館関係会議

第58回近畿地区医学図書館協議会例会

平成6年1月18日(天理よろず相談所病院)

図書館情報システム特別委員会目録業務システム専門委員会

(第3回)平成6年2月15日

(京都大学附属図書館)

図書館情報システム特別委員会ILL専門委員会

(第4回)平成6年2月15日

(大阪大学附属図書館生命科学分館)

近畿地区国立大学図書館協議会

平成6年4月25日(京都大学附属図書館)

第59回近畿地区医学図書館協議会例会

平成6年5月13日(大阪歯科大学)

第65回日本医学図書館協会総会

平成6年5月26日～27日(東京 八芳園)

平成6年度国立大学附属図書館事務部課長会議

平成6年5月31日(東京医科歯科大学)

第63回近畿地区国公立大学図書館協議会総会

平成6年6月10日(大阪教育大学)

第19回国立医科大学図書館会議

平成6年6月22日(か乃川荘本陣)

第1回国立医科大学図書館課長事務連絡会議

平成6年6月22日(か乃川荘本陣)

第41回国立大学図書館協議会総会

平成6年6月23日～24日

(伊豆長岡町総合会館)

地域ネットワーク関係

近畿北部地区国立大学図書館機械化連絡会議及

び同連絡会議ネットワークシステム小委員会

平成6年3月11日(京都大学附属図書館)

研修関係[参加者]

文献検索システム研修会

平成6年1月20日(J I C S T大阪支所)[菅]

平成5年度近畿地区国公立大学図書館協議会主
題別研究集会

平成6年1月28日(大阪大学附属図書館生命
科学分館)[菅]

平成5年度近畿地区国公立大学図書館協議会シ
ンポジウム

平成6年2月9日

(京都大学附属図書館)[小川]

平成5年度(大阪大学)職員研修のための講演会

平成6年3月23日(大阪大学附属図書館生命
科学分館)[菅]

附属図書館設備

図書館事務用電子計算機システムの更新

(平成6年3月)

図書館入退館事務機械化システムの設置

(平成6年3月)

図書館入退館事務機械化システム開通式挙行



テープカット

平成6年5月9日(月)学長他約20名の学内関係者の出席のもと図書館入退館事務機械化システムの開通式が挙行され、テープカット後同システムの本運用が開始された。

(システムの詳細については4頁に記載)

写真左から

高橋附属図書館長、野崎副学長、岡田学長、小澤副学長(病院長)、斉藤事務局長

人 事 異 動

昇任・採用・配置換等

(平成6年4月1日付け)

高橋 三郎 附属図書館長 (精神医学講座教授)
京藤 貫 図書課長 (富山大学附属図書館事務長補佐)
八木あすか 運用係長 (京都大学附属図書館情報サービス課雑誌特殊資料掛員)
谷垣 勲 管理係員 (整理係員)
杉本 茂 医事課医事係員 (管理係員)
成宮 英子 整理係員 (運用係員)
田中 雅浩 運用係員 (会計課出納係員)

出向・辞職・休職等

(平成6年3月31日付け)

繁田 幸男 任期終了 (附属図書館長)

(平成6年4月1日付け)

由良 信道 横浜国立大学附 (図書課長) 属図書館情報サービス課長
平元みさえ 京都大学化学研 (運用係長) 究所総務課図書掛長

滋賀医科大学附属図書館報「さざなみ」 No.36

1994年6月発行

発行人 京藤 貫

編集委員 森下誠一・小川晋平・菅 修一

発行 滋賀医科大学附属図書館 〒520-21 大津市瀬田月輪町

TEL.0775-48-2078 FAX.0775-43-9236